

第26回「許す、について考える」(2012/10/28)

場所：カフェバー・アルバ（外苑前）

司会、文責：野田

参加者：18人

要約：許す際に、何を考えて、どのようにやっているかについて議論しました。他者の過ちに直面した際に、それを許そうとする感情又は理性と、許してはならないと感じる又は考える感情又は理性が自分の中で対立し、その対立を克服する過程について主に議論しました。

内容：

1. 受け入れる、認めると言う意味での許す

- ・ 自分の家に入るのを許す。自分のものや領域を侵す、奪われることを許可する。自分のものを分け与える。
- ・ 車の運転の免許を与える。元々禁止されているが、運転できるようになって被害をもたらさないようになったため、許される。
- ・ 許可は、線を引いてその線のどちら側にいるかで、許可する、しないを決め、公平なジャッジを行う。他方、許容は度合いがあり、明確な線がない。

2. 人の過ちや欠点を許す

- ・ 仕事をしない人が許せなかったのが、許せるようになった。最初は感情のふれ幅が大きく、許せなかったが、時間と共に小さくなって許せるようになった。あきらめたり、無関心になる場合と、理解して納得する場合がある。
- ・ 怒りの感情は、許さないことに繋がるが、悲しみは許さないことに繋がらない。
- ・ 人を許せないのは、その人がデメリットをもたらすからではなく、何がしかの不正をもたらすからである。
- ・ 自分に余裕があり、過ちが繰り返されても、それに対して大丈夫な自分を作ることが出来るときに、積極的に許すことが出来る。相手を包み込む余裕が必要である。
- ・ 人の行動を不正であると判断し、怒りの感情を持つことで、許せなくなるが、相手の反省を引き出したいという期待などから、怒りの感情を静め、相手に許したと伝えることで相手の存在を肯定し、相手との信頼関係を回復する過程である。
 - ・ この意味では、相手が反省をしていないなら、許してはないという意見がありました。
 - ・ また、納得することが出来ないなら、完全には許せない。
 - ・ この意味の許しは、過去の過ちに対してである。将来の過ちに対して、特に意図的なものに関しては許せない。
- ・ 許すのは、信頼関係を回復するなどの正義或いは善の観点からであるという意見と、許さないことが心理的に負担であり、許した方が楽であるからという意見がありました。

- ・ 人の過ちに対して、どうしても許せないことがあった。過ちを犯した相手との人間関係は現在も続いており、信頼関係はあるが、過ちを許してしまっただけではいけないと感じた。許すことが自分の中の何かを否定することになる。

「赦し」について及び、小説『ゲルマニウムの夜』（花村萬月著）におけるキリスト教の信仰儀式である告解に関する対話が行われましたが、筆者の表現力を超えるため、割愛いたします。多数の要因が絡み合ったお題であるため、許すとは何かについての検討だけで終了の時間が来てしまいました。参加者が考えてみたかったお題に、良い許しとは、があります。機会があったら取り上げたいと思います。